

会 議 録

会議の名称	令和5年度第1回茨木市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	令和5年8月25日(金) (午前・ <u>午後</u>) 2時00分 開会 (午前・ <u>午後</u>) 3時30分 閉会
開催場所	茨木市役所 南館8階 特別会議室
議長	小幡 範雄 (立命館大学名誉教授)
出席者	◎小幡 範雄 (立命館大学名誉教授)、○金子 泰純 (元和歌山大学システム工学部教授)、川口 美加 (茨木商工会議所 女性会副会長)、東浦 憲次 (茨木市自治会連合会 監査)、松下 明子 (茨木市消費者協会 衣部会長)、林 雅敏 (株式会社ユニオンコーヒーローズターズ工場長)、抱 達哉 (廃棄物減量等推進員)、橋本 拓実 (アサヒ興産(株) 専務)、和田 美穂 (公募市民)、村上 誠 (公募市民)【10人】 ◎会長、○副会長
欠席者	小田原 朋美 (イオンモール(株) イオンモール茨木 オペレーションマネージャー)、山岸 悦子 (廃棄物減量等推進員)【2人】
事務局職員	松本産業環境部長、中村産業環境部次長兼環境事業課長、村上資源循環課長、前原資源循環課参事兼計画係長、九鬼環境事業課参事兼業務係長、上村環境事業課施設係長兼環境衛生センター所長代理、西谷資源循環課主査、濱田資源循環課職員【8人】
開催形態	公開
議題(案件)	(1) 案件1 会長及び副会長の選出について (2) 案件2 令和4年度ごみ排出量・資源物量の推移について (3) 案件3 令和4年度ごみ減量施策及び令和5年度一般廃棄物処理実施計画について
配布資料	(1) 【資料1】本市のごみ排出量・資源物量の推移について (2) 【資料2-1】令和4年度一廃棄物処理実施計画に示した取組項目の実施状況 (3) 【資料2-2】令和4年度茨木市一般廃棄物処理実施計画 (4) 【資料2-3】令和5年度茨木市一般廃棄物処理実施計画

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	1 開会
	2 産業環境部長挨拶
	3 委員委嘱
	4 出席者紹介
	5 案件1 会長及び副会長の選出について
事務局	これからの議事は、会長に議長を務めていただく。
	6 会議の成立・議事の公開
議 長	まずは委員の出席状況について、事務局から報告をお願いします。
事務局	会議については、審議会規則第3条第2項の規定により、委員総数の半数以上の出席がなければ会議を開くことができないとされている。本日の出席者数は総数12名のうち10名である。
議 長	ただ今事務局から報告のあったとおり、過半数の出席であるため、会議は有効に成立している。 次に、会議の公開について、事務局から説明をお願いします。
事務局	会議の公開について説明する。 本市では、審議会等の会議の公開に関する指針により、審議会等の会議は、個人に関する情報を審議する場合等を除き、公開を原則として、審議会等に諮ったうえで決定することとしている。また、審議に関して提出された資料についても、審議会の同意を得て、傍聴人に閲覧、配布することができることとしている。 なお、会議録の公開は、要点筆記により事務局で作成した案を、会長に内容を確認いただき、ホームページ等で公表すること、自由なご意見をいただく観点から会議録に表記される発言者名は伏せて、A委員、B委員と表記する形で公表することとしたいと考えている。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
議 長	<p>ただ今、事務局から会議の公開について説明があった。</p> <p>今後、会議の公開を原則とし、非公開にする必要が生じたときは、随時協議させていただく。また、会議録については事務局で要点筆記したものを会長が確認した上で、会議録に表記される発言者名は伏せ、A委員、B委員というような形で公表することとするが、異議はないか。</p> <p>【異議なし】</p>
議 長	<p>それでは会議録については、前述のとおり取り扱うこととする。また、本日の会議については公開とし、傍聴者への資料の閲覧を認める。今回、傍聴者はいるか。</p>
事務局	<p>傍聴者は2名である。</p>
議 長	<p>それでは、会議次第に沿って議事を進める。</p> <p>案件2と案件3は密接に関連しているので、続けて報告いただく。</p> <p>7 案件2 令和4年度ごみ排出量・資源物量の推移について</p>
事務局	<p>【案件2「令和4年度ごみ排出量・資源物量の推移について」の資料説明】</p> <p>8 案件3 令和4年度ごみ減量施策及び令和5年度一般廃棄物処理実施計画について</p>
事務局	<p>【案件3「令和4年度ごみ減量施策及び令和5年度一般廃棄物処理実施計画について」の資料説明】</p>
議 長	<p>まずは案件2について何か質問・意見等はあるか。</p>
A委員	<p>資料1「本市のごみ排出量・資源物量の推移について」中、最終処分量が前年度に比べて増加した理由として、事業系ごみの増加が影響したと記載があるが、平成26年度（基準年度）と令和4年度を比較したとき、事業系ごみ量や家庭系ごみ量は減少しているにもかかわらず</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	<p>ず、基準年度より令和4年度の最終処分量は増加している。この最終処分量の増加については、事業系ごみ量の増加の影響によるもの、では説明がつかないのではないか。</p> <p>令和3年度と令和4年度の最終処分量を比べると約256t増えている。分析したところ、熔融炉から煙突までの間には、排気ガスの排出基準を守るために、消石灰やアンモニア等の薬品類を吹き込んで、HCl、SOx、NOx等処理している。令和4年度実績を調べると、HClを処理するための消石灰の量が非常に増加しており、HClが多く発生したと思われる。ごみの中のプラスチックが増えるとHClも増えるため、増加した事業系ごみの中に、プラスチックが多く含まれたものと考えられる。そのため、最終処分量が増加した要因は、事業系ごみの増加にあるのではないかという結論に達した。本来、事業系一般廃棄物にプラスチックが含まれることはあってはならないが、現実的には入り込んでいたものと推測される。</p>
A委員	<p>説明についてはそれでよいが、別の問題が生じている。コロナ禍が明けたことに伴う単純な事業系ごみの増加ではなく、事業系ごみのうちのプラスチックごみ、特に塩ビ系のごみが増加したことは問題なのではないか。今後この問題をどうしていくのか。</p>
事務局	<p>資料1の2ページ目「本市の事業系ごみ量の推移」において、事業系ごみは、直接搬入と許可業者によるものがある。直接搬入からのごみ量は減少しているが、許可業者からのごみ量は約4.7%増えている。よって、許可業者の搬入時や、多量排出事業者の訪問時において指導等を行う。</p>
議 長	<p>資料1「本市のごみ排出量・資源物量の推移について」3ページの「事業系ごみの増加が影響したものと推測される。」の記述内容について検討するということよろしいか。</p>
事務局	<p>事務局で記載内容を検討する。</p>
B委員	<p>平成30年度に最終処分量が大幅に増えた要因は何か。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	北部地震や豪雨等による災害により、通常では排出されない災害廃棄物が排出されたため、平成 30 年度の最終処分量に影響を与えたものと考えられる。
議 長	他にあるか。 【特になし】
議 長	次に案件 3 について何か質問・意見等はあるか。
A 委員	資料 2-1「令和 4 年度一般廃棄物処理実施計画に示した取組項目の現地状況」中、実施状況の「継続」とはどういう意味か。たとえば、「食品ロス削減事業に取り組む事業者との協業に向けた調整」は、調整を始めているが、まだ済んでいないということか。
事務局	そのとおりである。事業者と何度か調整をしているが、合意には至っていないということであり、令和 5 年度も継続して調整するので、「継続」となっている。
A 委員	では「北摂地域の自治体と事業者による啓発活動の実施」とあり、これも「継続」となっているが、実施が継続とはどういうことか。
事務局	食品ロスやプラ削減について、例えばレジ袋については、平成 30 年から北摂地域とそれぞれの事業所で協議会を設置し、全国でレジ袋が有料化する以前から地域や事業者でレジ袋の削減に取り組んでいた。レジ袋の削減が一定の効果を上げ、協議会の役割を終えた後も、協議会で新たな取組の実施を試みている。取組内容については協議中であり、実施の継続を検討しているところである。
議 長	「実施」ではなく、今発言された旨を記載したほうが分かりやすいかと思う。
事務局	記載方法を検討する。
A 委員	「使用済みペットボトルの水平リサイクル事業化検討」についても

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	「検討」となっているが、どの程度、進展があったのか。
事務局	水平リサイクル事業者との合意には至らなかった。実施については引き続き検討しているが、個別の課題を整理している段階である。
A委員	課題は具体的に明らかになってきたということか。
事務局	そのとおりである。
議 長	今回、委員の入れ替わりがあり、初めての委員も多いということもあるので、審議会の感想等を一人ずつお聞きする。
C委員	ごみにおける家庭系ごみ、事業系ごみの比率について、初めて知った。事業をおこなっている上で、事業系ごみを減量していく必要性を感じた。情報について無関心というわけではなかったが、これからもごみ減量はしていかなければならないという思いを持って報告を聞いた。
A委員	茨木市は事業所が多いのかもしれないが、他市と比べると事業系ごみの比率が高い。令和7年度の減量目標を達成するためには、C委員の言ったとおり事業系ごみの削減は重要である。
D委員	自治会に所属する者としては、統計的な数量よりも、今週のごみはどういうものか、ごみの分別方法等、具体的な取組が身近な問題となる。粗大ごみの大と小の違い等、市民へのごみの分別の周知がまだ足りていないと感じるため、家庭系ごみの分別の周知を推進したいと思う。
E委員	いろいろな施策があることを知り、驚いている。参加できる施策があれば積極的に参加したい。
F委員	審議会で市の取組を知ることができた。家庭でできるレベルのことから少しずつ取り組んでいき、多くの市民に知ってもらいたい。
議 長	多くの市民に知っていただくというのは、本当に難しく、なかなか

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	できないことであるが、是非お願いしたい。
G委員	人口は約 28 万人で推移しているが、年々集団回収の回収量は減っている。こども会等の団体が減っていたり、高齢化等の影響で、新聞紙は減っていることが理由とも思うが、本当の理由をはっきりとは分からない。今後、資源物量を増やすためにどう取り組むのか。
事務局	<p>集団回収の団体数は、少しずつ増えているが、新聞紙や雑誌の電子化により、必然的に資源物の回収量は減っている。今後、紙需要が再び増加する見込みはない。</p> <p>また、報奨金申請があった団体の回収量は把握しているが、市が設定している基準を満たしていない団体については回収量を把握していないため、そのような団体をすくい上げると、団体数や回収量は増加すると思われる。過去には基準を緩め、報奨金の対象団体を拡大した経緯もあるが、今後拡大していくとなると、拡大の是非や市の予算等の問題もある。今後も現在の制度を継続するが、より良い方法があれば検討したい。</p>
H委員	<p>私が所属する団体としては、食品ロスについてイベント等に参加し、啓発活動をしているが、実際に市民の方が実践するまでには至っていない。</p> <p>また、豊中市等、他市ではもっと細かく分別している。茨木市もプラスチックや金属類等、新たなごみの分別が必要なのではないか。</p>
事務局	<p>ジャンパーの容器やプラスチックハンガー等の、プラスチックごみの再資源化は国も注目しており、本市でも重点施策として、どのようにプラスチックごみについて再資源化していくか、検討しているところである。</p>
B委員	<p>自治会としては、ごみの分別を守るように地域内で周知している。茨木市では、現状、プラスチックはリサイクルしているのか。</p>
事務局	<p>ペットボトルについては、収集後、年間契約している委託業者に引き渡し、リサイクルしている。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
I 委員	<p>色々問題はあるのかもしれないが、茨木の炉は他市のものよりも優れているので、細かい分別が不要と聞いている。また、分別を細かくしてしまうと、市民に正しく守ってもらうことが難しくなるのではないかと思う。</p> <p>今回は、基本的なことについてあまり詳しくない中、報告を聞いた。3きり運動、3010 運動や水平リサイクルについて知らなかったが、こういう市民は多いと思う。市も発信はされていると思うが、発信が届いていない人にどう届けるのか。</p>
議 長	<p>基本計画には用語集がついていることが多いが、用語集がついていない。</p>
事務局	<p>簡単に用語説明させていただく。</p> <p>3きり運動とは、「生ごみの水をきる」、「食材を使い切る」や「食べきる」の3つの取組でごみの削減等をしようという運動である。</p> <p>水平リサイクルとは、例えばペットボトルでは、回収したペットボトルごみを、再度同じものであるペットボトルに作り替えるリサイクル方法である。</p> <p>3010 運動は、宴会等の最初の 30 分と最後の 10 分間はしっかり食べて食品ロスを減らそうという運動である。</p>
I 委員	<p>新聞紙は目に見えて減ったと思うが、ネットショッピングすることが増えた影響で、ダンボールは増えているように思う。茨木には倉庫の企業等も多いので、そのような事業者と共に取組等をおこなうのはどうか。</p>
事務局	<p>本市では、1月あたり3t以上ごみを排出している多量排出事業者には、減量計画書を提出させ、ごみ減量や再資源化の取組等について訪問して指導をしている。その中で、ダンボールも含め、紙類もきちんと分別・再資源化するように指導している。</p>
議 長	<p>集団回収のデータをみても、紙類の総量は減っているが、ダンボールは横ばいであるため、ダンボールについては、何か取組を考えられたらよいと思う。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
A委員	<p>ごみを減らすとなると、どこの市でもプラスチック、生ごみをどう減量するかが課題と考える。北摂の各市のような都市部では実施が難しいが、郊外では自治体が生ごみを別に収集して、バイオマス発電や堆肥化している例もある。</p> <p>また、全国的にはごみは有料化が当たり前になってきた中、大阪はほとんど有料化されておらず、珍しい地域である。</p> <p>先ほど、茨木市の炉（熔融炉）が優れているという話があった。確かに熔融炉にはメリットもあるが、CO₂の排出量が多いデメリットもある。2030年、2050年に向けて、日本全国でCO₂を削減する流れがある中、長期的には今後、茨木市の炉をどうしていくかという難しい問題を抱えている。</p>
議 長	他に質問・意見等はあるか。
B委員	<p>市民にとっては、茨木市で収集されたごみや資源物がどう処理されているか分からない。例えば、生ごみがどう処理されているのか、生ごみは堆肥化もできるが茨木市では今後どうするのか等、市の方針や目指すものを理解できれば、よりごみ減量に協力できると思う。次回はそういったことを知りたい。</p>
議 長	<p>市に該当する資料はあると思うので、市と連絡を取り、何が必要か具体的に伝えてもらえればと思う。</p> <p>他に何かあるか。</p> <p>【特になし】</p>
	9 その他
議 長	事務局から他に何かあるか。
事務局	【各委員への連絡事項の伝達】
議 長	本日の審議会はこれで終了とする。
	10 閉会